

[015]言語と文化のジェンダー表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1654391>

出版情報：言語文化叢書. 15, 2005-03-18. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

はじめに

平成 15 度の言語文化研究院公開講座は、「言語と文化におけるジェンダー：男女共同参画型社会に向けて」と題して、私たちの周りにおけるジェンダーと関わる事象を様々な観点から取り上げていきました。以下が講義題目、講師、および簡単な内容紹介です。

第 1 講義「ジェンダーを考えよう」谷口秀子（言語文化研究院）：ジェンダー概論。生物学的な性のあり方を意味するセックスとは異なり「女は、男はこうあるべきだ」という文化的・社会的に作り上げられた性に対する固定観念であるジェンダーについて概観する。

第 2 講義「文学作品における家父長制のテーマ」徳見道夫（言語文化研究院）：家父長制表現の典型とも言うべきシェークスピアの歴史劇を素材としながら、二人の登場人物（ハル王子とホッツパー）を通してシェークスピアの表現する家父長制の特徴的なあり方についての考察を行う。

第 3 講義「日本語の会話に見られる男女差」松村瑞子（言語文化研究院）：日本において女性は男性より多くの敬語表現を本当に使っているのか、日本語に特徴的とされる男言葉・女言葉の使用実態、男女のコミュニケーション・スタイルの相違について考察する。

第 4 講義「マンガに見る会話戦略としてのジェンダー表現」因京子（留学生センター）：マンガ作品や小説作品に現れた会話を素材として、語彙や表現形式として現れるジェンダー表現がどのような効果を生み出しているかについて考察する。

第 5 講義「絶対の否定の否定：ジェンダーの視点で」田部井世志子（北九州市立大学文学部）：男と女という両性に関する従来の絶対的な視点を疑い、その視点を相対化させることで、学問という体系を問い直すフェミニズム・アプローチに従って、「シンデレラ」「白雪姫」等の文学作品の再解釈を行う。

第 6 講義「中国現代文学に見る女性像」岩佐昌暉（言語文化研究院）：中国現代文学における女性像の歴史について、「女性（生物学的な概念で情緒的な色彩がない）」「婦女（政治的な概念で情緒的な色彩がない）」「女人（身体的な概念で生身の女という情緒的色彩がある）」をキーワードとして考察する。

第 7 講義「スペイン語における男性・女性」山村ひろみ（言語文化研究院）：スペイン語を例として、女の表され方とジェンダーの関係、そこから生まれる諸問題を取り上げ、その解決策を模索する。

第 8 講義「歴史の中の教育とジェンダー」野々村淑子（人間環境学研究院）：「いかに生きるか」という問いの系譜をたどりながら、そこにある女と男の人間形成の差異とその変容過程を見ていくことによって、歴史の中のジェンダーと教育について考える。

第 9 講義「映画に見るジェンダー：男性と女性はいかに描かれてきたか」志水俊広（言語文化研究院）：映画の中で男性と女性がどのように描かれてきたか、特に男性の監督は女性をいかに描いてきたかについて考える。

第 10 講義「ラブコメのジェンダー」日下翠（比較社会文化研究院）：日本の恋愛文化の特徴、外国文化との相違、さらにラブコメ（ラブ・コメディ）を題材として今日の男女の恋愛や付き合い方の関係について考察する。

この公開講座の内容をベースにして書かれたのがこの論集です。最初は 10 名全員が執筆する予定でしたが、最終的には 7 名による論集になりました。これが九州大学大学院言語文化研究院におけるジェンダー研究の第一歩となり、今後益々ジェンダー研究が進められることを期待いたします。

平成 17 年 2 月
九州大学大学院言語文化研究院 松村瑞子